

平成29事業年度

財務レポート

北見工大

国立大学法人

北見工業大学

教育研究事業の推進 施設・設備の整備

本学の強み・特色である寒冷地工学・エネルギーなどの研究を基礎として、1次産業の機械化及び雇用創出等の地域課題解決につながる研究を行いました。また、学部改組により、新しい時代を切り拓く人材育成の取組を行いました。

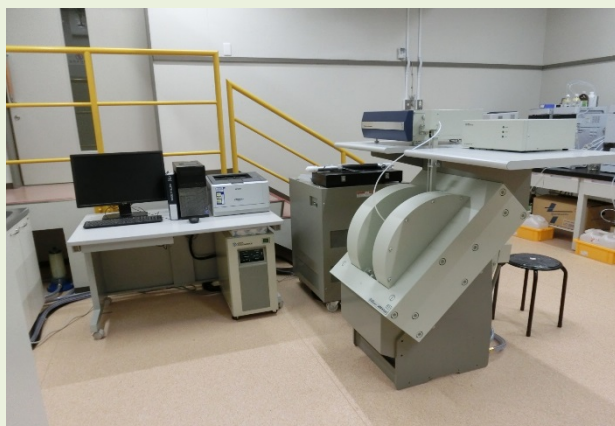
総合研究棟（機械工学系）改修工事の実施



老朽化した機械工学科1号棟の改修工事を行った。従前は学科の実験室であったスペースを、学長がリーダーシップを発揮し用途を決定する学長裁量スペースに変更し、本学の強み・特色のある研究を推進する環境整備を行った。

財源：施設費 事業費：354百万円

電子スピン共鳴分光装置及び超臨界抽出分析装置の導入



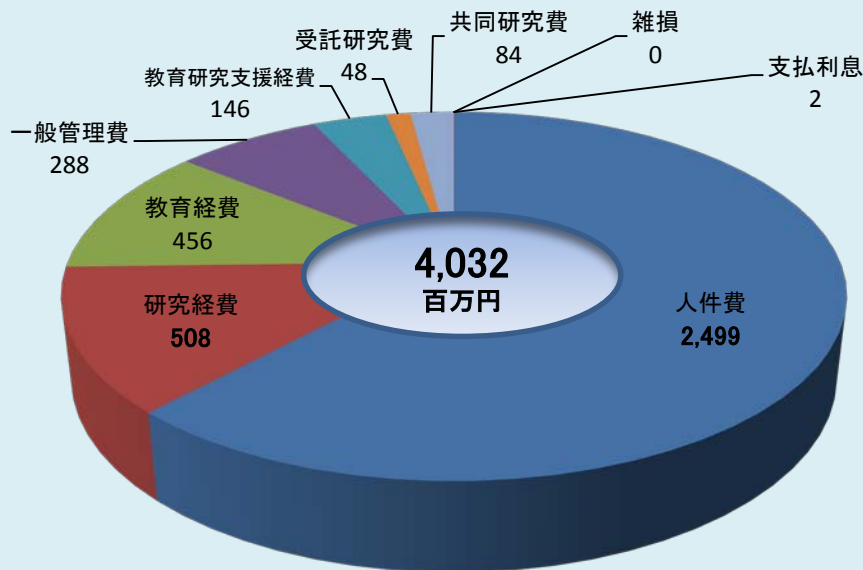
上記改修工事により新たに設けた学長裁量スペースに、電子スピン共鳴分光装置及び超臨界抽出分析装置を設置し、オホーツク地域の企業・団体との共同研究において、植物試料中の薬理成分の分析や抗酸化性等の機能性評価に使用し、一次産業に関する取組を推進した。

財源：設備整備費補助金 事業費：42百万円

平成29事業年度の損益報告

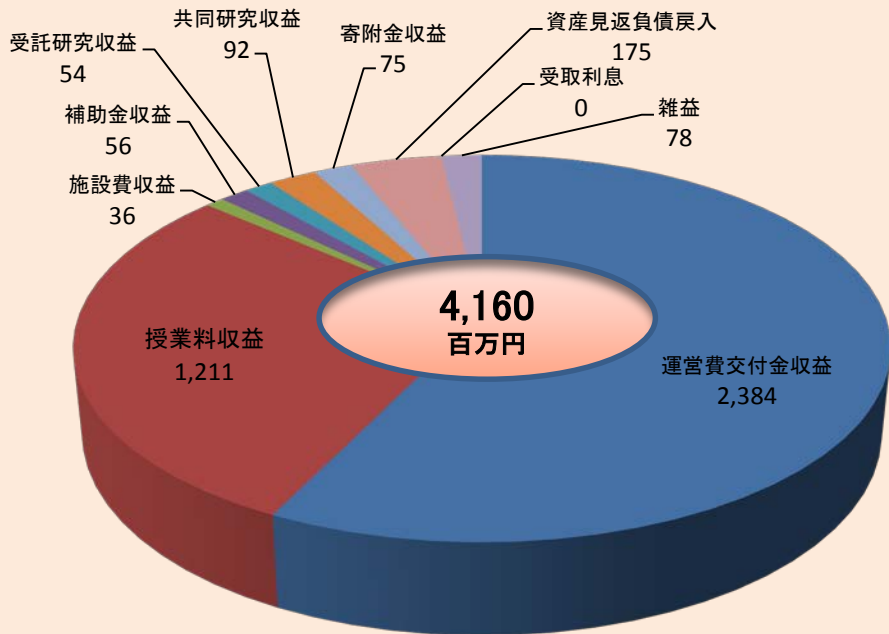
単位:百万円
(詳細は財務諸表をご覧ください)

経常費用



人材育成に直接関連する教育経費については、人件費や一般管理費を含む他経費とのバランスに留意しながら確保に努めることが重要です。

経常収益



受託研究、共同研究や寄附などの外部資金による収益基盤を充実させることで、大学運営をより一層安定させることができます。

経常利益

経常費用	4,032
経常収益	4,160
経常利益	128

経営努力等

経費削減への取り組み

- 平成29年11月より、一括して契約締結することにより納入価格を抑えることを目的として、文房具推奨品を定め、経費削減を図った。
- 事務局事務費を対前年度比で2%抑制。

自己収入確保への取り組み

- 外部資金獲得者に対する優遇策として、新たに北見工業大学報奨金支給要項を制定し、平成30年3月に外部資金獲得に貢献した教員に報奨金を支給した。
- 1次産業関係者へのニーズ調査等の共同研究につながる取組を実施した結果、共同研究が99件、奨学寄附金が88件となり、目標値の共同研究82件以上、奨学寄附金61件以上を大きく上回った。

情報セキュリティ対策の強化

- 従来実施していた全教職員対象のeラーニング教育(研修)だけでなく、サーバ管理担当者に特化したeラーニング教育(研修)についても自前で教材を作成し、平成29年11月に実施した。

資産の状況

単位：百万円

	平成29年度	平成28年度	増減		平成29年度	平成28年度	増減
資産の部	9,706	9,430	276	負債の部	2,899	2,798	101
土地	1,562	1,566	▲4	資産見返負債	1,803	1,818	▲15
建物・構築物	5,436	5,334	102	その他の固定負債	189	196	▲7
機械装置・工具器具備品	657	703	▲46	運営費交付金債務	53	0	53
図書	1,007	1,007	0	その他の流動負債	854	784	123
その他の固定資産	30	44	▲14	純資産の部	6,806	6,632	174
現金・預金	946	742	204	政府出資金	4,333	4,333	0
その他の流動資産	66	32	34	その他の純資産	2,473	2,298	175

北見工業大学の理念と使命

北見工業大学は「人を育て、科学技術を広め、地域に輝き、未来を拓く」を理念に掲げ、高度化・複雑化している科学技術の急速な進展の中で、「個々の専門分野についての基盤的な技術、知識を有するのみならず、学際領域や新しい分野の開拓にも柔軟に対応できる能力を持ち、自然と調和した科学技術の発展と国際社会への対応を念頭においた技術開発を行い得る人材を養成する」ことを使命としている。このことをもって、本学は地域社会の発展はもとより、国家・国際社会の安全と平和および文化の進展に貢献する。

北見工業大学の基本目標

- 向学心を喚起し、創造性を育み、将来の夢を拓く教育
- 個性に輝き、知の世紀をリードし、地域特色のある研究
- 地域のニーズに応え、地域をリードし、地域の発展に貢献
- 国際的視野を踏まえた教育研究、学生・教職員の国際化を推進